

近畿中国局フォレスターNEWS

里山広葉樹林の活用と再生に関する現地検討会を開催（岡山県）



質疑応答の様子



素材生産（広葉樹）の視察状況

近畿中国森林管理局では、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所と技術開発・普及等に関する連携協力協定を締結し、その一環として、平成25年度から民有林関係者を対象とした林業の低コスト化技術等に関する現地検討会を毎年開催しています。

かつて薪炭林等として活用されていた里山広葉樹林は、近年様々な要因から使われなくなったことで、幹の直径が太く、樹高も高い森林に変化しています。これを資源として活用できれば、森林が若返ることでナラ枯れ被害を抑制でき、輸入広葉樹材の代替となる木材の供給や地域振興にも貢献できる可能性があります。そこで、近畿中国森林管理局では、平成29年度から「里山広葉樹活用・再生プロジェクト」の取組を開始し、森林総合研究所関西支所においても、平成28年度～30年度に「広葉樹も多い中山間地で未利用資源を無駄なく循環利用するための方策の提案」のプロジェクトを実施されました。

今年度は、「里山広葉樹の活用と再生」をテーマに、上記のプロジェクトの成果や経過等の情報発信を行うとともに、需要動向や管内自治体の取組を共有し、課題や方策について意見交換を行うための現地検討会を、新見市内の会場及び釜谷（かまたに）国有林において、10月10日（木）から11日（金）の2日間にわたり開催しました。

2日間で延べ184名の方にご参加いただき、両日を通して里山広葉樹のこれまでと今後について知見を深めていただきました。現地検討会終了後のアンケートでは、「概ね満足」との回答をいただくとともに、「樹種の特徴に応じた利用で多くの広葉樹を活用していくべき」、「災害に強い森林を作るためには採算ベースも考慮した更新が必要」及び「広葉樹の活用の方法、売り方については更なる検討が必要」と、今後に向けた課題もいただきました。

滑マツ・専門家による現地指導を開催（山口県）

山口県徳地（とくぢ）の滑山（なめらやま）国有林に自生する「滑マツ※」と呼ばれる樹齢200年のアカマツの大径木がマツ枯れや台風被害などにより本数が激減したため、7月16日（火）～17日（水）の2日間にわたり、国立研究開発法人 森林研究・森林機構 森林総合研究所 九州支所の主任研究員 金谷整一（かねたに せいいち）農学博士をお招きし、現地指導等をいただきました。

1日目は「滑山アカマツ・ブナ・コナラ等遺伝資源希少個体群保護林」に設定している滑山国有林において、これまでに実施した「樹勢回復のための樹幹注入」、「稚樹の育成のための刈出し」等の施業の有効性を参加者で共有するとともに、金谷氏から、滑マツの種が発芽・成長しやすいように雑草木の除去を7月頃行うとともに、マツ枯れを予防するために、樹幹注入剤の投与等の事業は継続する等の指導をいただきました。

2日目は、山口森林管理事務所会議室において、種子島や屋久島に自生する「ヤクタネゴヨウマツ」の「松くい虫」防除活動の成功事例を金谷氏が紹介した後、現地のドローン映像を参加者で視聴を行い、意見交換を行いました。

金谷氏からは「行政主導の取組には限界があり、地域・ボランティアの協力なしでは活動が停滞するため、さらなる活動の輪を広げる努力を行っていくことが必要」との助言をいただき、次回からの活動に活かすことを参加者間で確認し終了しました。

※ 滑マツ：（ア）材が通直で裏ごけが少ない、（イ）枝下が高く枝が少ない、（ウ）樹皮が極めて薄い、（エ）年輪幅が狭く均等で偏心がない、（オ）心材部が多く、心材は赤色鮮明である 等銘木としての価値があるため、皇居新宮殿の内装材等に使用されていたが、現在では70本程度に減少



事務局担当者による現地説明



事務局担当者による現況説明

令和元年度 各府県国有林野等所在市町村長（有志）協議会を開催

近畿中国森林管理局及び各森林管理署等では、府県内の国有林野等所在市町村との連携強化を図ることを目的に、毎年国有林野等所在市町村長（有志）協議会を開催し、地元の農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することとしています。

今年度も7月下旬から10月上旬にかけて、管内の全府県で開催し、参加者からは「放置森林が増加し、木材も利用されない状況にあるため、人々が森林・林業・山村に関心を持つような、中長期的な視点に立った施策が必要である」との意見も出され、林野庁へ情報するとともに、今後の国有林野事業に活かしていきます。

また、上記の協議会を踏まえ、府県協議会間の連絡調整を図るため、近畿中国森林管理局管内国有林野等所在市町村長代表連絡協議会を10月23日（水）に開催しました。



令和元年度 奈良県内国有林野等所在市町村長協議会 議事説明

I ICT (3D地上レーザスキャナシステム) を活用した森林資源量調査に係る現地検討会を開催（鳥取県）

戦後造林した人工林が本格的な利用期を迎える中、豊富な森林資源を適切に管理するためには、森林資源量を効率的に把握する必要があります。

しかし、多くの産業で労働力不足・担い手不足が叫ばれている中、「林業従事者」も長期的に減少傾向で推移しており、ICTの導入により、生産性を向上させ、マンパワー不足を補うことが今後益々必要となります。

そこで、3D地上レーザスキャナ計測※（以下、「3D計測」という）の普及の促進を図るため、10月24日（木）に鳥取県日野（ひの）郡江府町（こうふちょう）で現地検討会（計測実習及びその後のデータ解析等の実習）を開催しました。

当日は雨天のため、屋外での計測実演が実施できず、室内に立木に見立てた測量ポールを設置し、屋外と同様に計測を行いました。

その後、事前に準備していた計測データを用いたデータ解析を行い、3D計測のメリット・デメリットを説明しました。

3D計測を使用するメリットの1つとして、森林管理署担当者からは、「計測により得られた森林内の3D画像により、森林所有者に対し施業プランを”ビジュアル的”に説明することができる」との説明がありました。

なお現地検討会参加者からは、「集積場の検知に利用できないか」といった新たな使用の提案が発言されるとともに、「高額機器のため、費用に見合う効果が求められる」との意見もいただきました。

※ 3D地上レーザスキャナ計測：計測機器のセンサーからレーザーを照射することにより、立木の樹高や直径のほか、樹幹の形状・位置や地形等を正確に把握することが可能であり、森林現況の3D化を始め、様々な森林資源情報を短時間で把握できる



計測機器 (OWL) 操作説明状況



参加者からの質問

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今回は3か所の現地検討会についてお知らせしました。

現地検討会は10月に引き続き、11月にも多くが開催されます。近畿中国森林管理局のHPにおいて、開催案内を掲載

(<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/gentikentoukai.html>) していますのでご覧いただき、興味のあるテーマについては、参加も検討ください。